

議第16号議案

75歳以上の医療費窓口払い本人2割負担の導入に反対する意見書

上記議案を別紙のとおり提出いたします。

令和2年12月14日提出

提出者	新座市議会議員	嶋田 好枝
賛成者	//	笠原 進
	//	高邑 朋矢
	//	石島 陽子
	//	小野由美子
	//	小野 大輔
	//	辻 実樹

提 案 理 由

75歳以上の医療費窓口払いが本人2割負担とならないことを求めるため、この案を提出する。



## 75歳以上の医療費窓口払い本人2割負担の導入に反対する意見書（案）

菅義偉首相は、「年収200万円以上」（年金のみの単身世帯）の75歳以上、約370万人を対象に医療費の窓口負担を2割に引き上げる方針を決めました。これは約370万人の人々の窓口負担が一気に2倍になるということです。

収入も少なく病気になりがちな75歳以上に負担増を強いることは、経済的事情で必要な医療が受けられない事態を深刻化させます。負担増は許されません。

2割負担導入は、従来の75歳以上の窓口負担の原則を大きく覆します。75歳以上の後期高齢者医療制度は2008年4月の開始以来、原則1割負担が続けられてきました。政府自身も、それが「高齢者が心配なく医療を受けられる仕組み」と強調してきたはずでした。ところが安倍晋三前政権はその姿勢を転換し、2019年12月に全世代型社会保障検討会議の中間報告で、2割負担導入方針を示しました。引き継いだ菅政権は、結論を出すことを急いでいます。

新型コロナウイルスの感染拡大で高齢者の健康と生活への不安が高まっているときに、医療の負担増を持ち出す姿勢は重大です。道理のない2割負担をやめるよう要望します。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和2年 月 日

埼玉県新座市議会

内閣総理大臣 様  
厚生労働大臣 様